

事業名 視覚障害者誘導施設整備事業 (あおばどおり 青葉通 地下道)

視覚障害者の利用頻度の多い地下横断歩道へ「音声による視覚障害者誘導システム」を導入し、視覚障害者の外出時の歩行支援を行った事業

受賞機関 建設省東北地方建設局仙台工事事務所
事業実施期間 平成10年10月6日～平成11年3月15日
事業費 63百万円

技術等の特徴と評価

視覚障害者に対する外出時の歩行支援として、視覚障害者の意見を取り入れながら音声による視覚障害者誘導システムを導入し、歩行空間の安全性向上に貢献したことが評価できる。

事業の概要と効果

年々近づいてくる高齢化社会にともない、高齢者や障害者を含めた全ての人々が安全かつ快適に利用できる歩行空間の確保が不可欠とされている。このようななかで、視覚障害者は全国で約31万人(総人口の約0.25%)、うち重度の視覚障害者は約17万人(H8、厚生省調査)であり、外出時の歩行に対しては何らかの支援が必要である。

視覚障害者に対する外出時の歩行支援としては、視覚障害者用誘導ブロックが一般的であるが、これに加え「位置や方向等の直接的な情報」を提供することが効果的である。

一方、青葉通地下道(平成3年9月完成)は、仙台市の中心部に位置し、仙台駅に近く繁華街が周辺にあるこ

とから、利用者の大変多い地下横断歩道である。また、誘導ブロックとエレベーター等が整備されているが、通路がスクランブル状で複雑であることから、視覚障害者にとっては目的の位置にたどり着くことが難しい形状となっており、このため、試験的にはあるが、青葉通地下道に「音声による視覚障害者誘導システム」を導入し、視覚障害者の歩行支援を行ったものである。

なお、システムの導入にあたっては、音声案内の位置や内容、付随するエレベーター入口部の触知案内板等について、視覚障害者より意見等を伺いながら整備を行った。

効果としては、本事業の完成が平成11年の3月中旬のため、利用者(視覚障害者)からの評価等は現在無いが、完成後にはアンケート調査を実施し、評価等の取りまとめを行うとともに、改善事項のある場合は、より利用しやすいものへ改善していく予定である。

また、現在、音声等による視覚障害者誘導システムが全国的に確立化されていないことから、本システムを利用しての改善要望及び必要データの収集等を行っていくことで、音声等による視覚障害者誘導システムの全国的な確立化と普及拡大を促進し、視覚障害者が健常者と同様の社会生活を送るための手助けになると思われる。



触知案内板(青葉通地下道上部エレベータ入口)



方向案内箇所(青葉通地下道内通路)
※天井中央部に方向案内スピーカー



視覚障害者への模擬体験(青葉通地下道内通路)